

生活に寄り添うガラス

私たちの生活の中で色々なところに使われているガラス。窓や食器、液晶など見かけない日はないくらい身近な素材の一つです。今回はガラスに関連した本を紹介します。

1冊目は、みつま ともこ/著『ガラス 楽しむ工夫×基礎知識×注目の作家・ブランド50』です。

暮らしにガラスを取り入れて楽しむための、入門書にぴったりな一冊。ガラスの原料や種類といった基本となる知識と、ガラスの特徴や魅力を活かしたアイデアが紹介されています。ある時には、食卓で食材の色味を際立たせ、目にも楽しい演出を。またある時には、お気に入りのものを入れて飾る、小さなショーウィンドーに。使い方によって様々な表情を見せてくれる、ガラスを活かした暮らしを始めてみませんか。

2冊目は、グラフィック社『日本のレトロびん』です。

ガラスといえば、ガラスびんを思い浮かべる方も多いのでは？こちらは、明治初期から平成までにつくられたレトロなびんを紹介している本です。現在では、透明で左右対称なガラスびんが一般的ですが、大正～昭和のガラスびんは気泡が入っていたり、左右非対称な形になっていたり、技術が未熟ゆえに唯一無二の個性があります。この個性こそがレトロびんの魅力とも言えます。眺めるだけでも楽しいレトロなガラスびんの世界へ案内してくれる一冊です。

3冊目は、寺地はるな/著『ガラスの海を渡る舟』です。

あることがきっかけで祖父からガラス工房を受け継ぎ、お互いに思うところがありながらも工房を切り盛りしていくことになった兄・道と妹・羽衣子。しかし、性格が正反対なため、衝突が絶えません。それでも年月を経ていくなかで、お互いのことを知り、また自身についてやガラス製作に向き合うことで成長していく二人を描いています。

最近、心が頑なになっていると感じている人におすすめしたい、優しく解きほぐしてくれるような物語です。

図書館にはこの他にも、ガラスに関連する本がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。